

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 25 日

札幌市立 東札幌小学校

1 今年度の重点目標

【子どもの声を聴く】
 ・子どもの思いや願いを捉え、教育活動に生かす ・子どもの困りや悩みに寄り添う
 【意志を高める指導】
 ・「指導」とは、させることではなく「意志」を高めること ・失敗への批判ではなく、挑戦を応援する
 【学校全体で取り組む特別な教育的支援】
 ・特別な教育的支援の組織的、計画的な推進 ・校内学びの支援委員会の機能強化 ・特別支援教育コーディネーターの役割及び配置

2 本年度の経営方針

のぞみかがやく学校
 夢ふくらむ東札幌！笑顔かがやき、心ときめき！
 ○「学ぶ力」の育成……「たい」が生まれる授業
 ○「豊かな心」の育成……「あこがれ」と「ありがとう」
 ○「健やかな体」の育成……自分の体を自分で守る

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 重点項目 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|-----------------|--|--|------|---|----------|---------|
| | | | 達成状況 | 改善方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 目指す子ども像 | 自ら学び深く考える子【知】 豊かな心としなやかな感受性を磨く子【情】 夢に向かって挑戦する子【意】 進んで運動に親しみ体をきたえる子【体】 | ・創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善ができたが。 | A | 「のぞみかがやく学校」を目指し、教育活動全体を通して、「子どもの声を聴く」「意思を高める指導」を重んじて取組を継続してきた。子どもの思いや願いを捉えて教育活動に生かすこと、子どもの困りや悩みに寄り添う姿勢を重視する。また、「指導」とはさせることではなく「意志」を高めることと、子どもの挑戦を応援することを大切にした指導を更に展開していく。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会による意見 | | 「のぞみかがやく学校」を目指して、日々子どもの挑戦を応援する指導を大切に、学校は尽力しているとらえている。今後もぜひ継続してほしい。 | | | | |
| 人間尊重の教育 | 一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる取り組み | ・道徳教育や命を大切にす指導等、また学校教育全般を通して、互いを大切にす心の育成。 | A | 4年生以上で道徳の専科授業を行った。一人一人が自他の生命を尊び、互いにかげがえのない人間としての尊厳や個性、多様性を認めるような指導を継続する。自治的な活動も生かしながら「自分が大切にされている」と実感できるような指導を展開していく。 | A | A |
| 「学ぶ力」の育成 | 「たい」が生まれる授業 | ・分かる・できる・楽しい授業の充実 ・一人一人の思いや学び方に応じた授業改善 | B | 1人1台端末を効果的に活用したり、指導内容や展開に合わせた教材や教具を工夫したりすることで、子ども一人一人が思いや考えをもてるような授業実践を重ねてきた。「知りたい」「調べたい」といった主体的な学びを促す働きかけを継続していく。児童の読書への意欲高揚が課題のため、読み聞かせやお話し会等の活動を継続する。 | A | A |
| 「豊かな心」の育成 | 「あこがれ」と「ありがとう」 | ・相手意識をもち、学校生活習慣の確実な定着 ・ふれあい活動を通して、互いを思いやる心の育成 | A | 「相手の気持ちを考えながら、友達と仲良くする。」の項目で肯定的な回答が児童・保護者アンケートともに93%程度であり、相手を尊重しようとする意識が高まっている。適切な言葉遣いや挨拶に関して、意識の高揚が必要である。異学年交流の機会を確保し、自他を思いやる心の育成に努めた。関係諸機関との確かな連携を継続する。 | A | A |
| 「健やかな体」の育成 | 自分の体を自分で守る | ・運動を好み、進んで体を動かそうとする。 ・心身の調子を考え、食や生活習慣など、健康・安全に気を付けようとする意識の醸成。 | B | 児童アンケートで「体育の授業では進んで学習に参加している」の肯定的な回答が90%である。児童が積極的に体を動かすための時間、空間、仲間を適切に設定していく。生活リズムについては課題があるため、児童が自らの健康について考えながら、運動や遊びに意欲的に取り組む意識を高めていく。 | A | A |
| いじめ対策 | いじめの未然防止、早期発見・対処、早期解消 | ・いじめを決して許さず、互いを思いやる心の育成。 ・未然防止、早期発見・対処、早期解消を図るための組織的対応。 | B | 児童アンケートでは、「相手の気持ちを考えて、友達と仲良くしている」の肯定的な回答が94%である。いじめの未然予防、早期発見・適切な対処、早期解消の組織的対応を図るためには、丁寧な初期対応を行ったり、教職員間の情報共有に努めたり、研修などの学習機会を充実させたりといった、不断の努力を続ける必要がある。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会による意見 | | ・近隣の商業施設では、夜8時以降でも親子で買い物に来ている小学生の姿を見かける。生活のリズムが適切なのか懸念を抱いている。適切な家庭環境のための保護者への働きかけも大切ではと感じる。 | | | | |
| 学校独自に設定する分野 | 一貫性・連続性のある教育（小中一貫した教育） | | A | ・日章中学校との連携を継続し、6年生児童の中学校見学や児童向けのガイダンス、小中の教職員の連携会議・引継ぎ・支援学級相互の交流学習等を通し、9年間の学びを意識した教育活動を展開している。パートナー校と指導の連携を深め、コミュニティースクールの実施へ向け、体制を整備した。 | A | A |
| | 業務改善・働き方改革 | | A | 高学年における教科担任制、専科指導等に取り組み、授業準備等、学習成果の共有等、日常業務の効率化に継続して取り組んだ。学校ホームページや保護者連絡アプリなど、デジタルを活用した業務の効率化を進めている。今後も業務内容を見直し、負担を軽減しつつ、教育の質を高める取り組みを継続していく。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会による意見 | | ・中学校との連携はとても良いことだと思うので、これからも継続してほしい。 ・さらに少人数学級が広がると、より目が届きやすくなり、学習指導生活指導の面でよいと思うが、現状では教員不足が続いているので、働き方改革を一層進め、教員が増える方向となるとよいと考える。 | | | | |